

平成20年度御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会  
御殿場市市民協働型まちづくり事業補助金 事業提案説明会・審査会 議事録

日 時：平成20年6月21日（土）10：00～13：00

会 場：萩原公民館多目的ホール

参加委員：委員16名（前田・福島・神保・勝亦・志水・渡邊・芹澤・渡辺・近藤・沓間・  
菅沼・岩田・芹澤・上道・山本・沓間）

学識経験者1名（牛山）

計17名

事務局：内田・瀬戸・勝又・勝又（地域振興課）

山本（㈱ダイナックス都市環境研究所）

1 開会

2 会長あいさつ：芹澤 御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会会長

市民協働型まちづくり事業も3年目になり形になってきた。昨年度は、協議会で平成20年10月にオープンする御殿場市民交流センター内の市民活動室を市民協働型まちづくりの拠点とするために検討してきた。ぜひ、活用していただきたい。

本日は、4月に募集をした市民協働型まちづくり事業に、行政提案1件・市民提案事業に6件（はじめの一步2件・市民提案4件）のうち、行政提案と市民提案の4事業がプレゼンテーションをしていただくので、大変楽しみにしている。いいプレゼンテーションにしていいただきたい。

3 行政提案事業説明

テーマ「市民活動見本市の開催」

①「2008元気わくわくごてんばフェスタ」

事業計画書に基づき、NPO法人御殿場市体育協会から事業説明が行われた。

質疑：特になし

4 御殿場市市民協働型まちづくり事業補助金事業提案及び質疑応答

事業計画書に基づき、4団体より事業説明が行われた。説明後の質疑応答は以下のとおり。

① 御殿場線まつり・秋（御殿場線を育てる会）

Q：今回の事業に行政がどのように協働していくのか。

A：市商工観光課が前面に出て協力してくれる。商工会・観光協会の協力もいただけることになった。

Q：御殿場駅以外の沿線での活動はどのようになっているか。

A：他の駅ではあまりやっていない。平成19年度は山北駅でも同時開催のイベントがあった。上部団体の御殿場線元気づくり推進機構による御殿場線の各駅をまわるスタンプラリーを提案している。

## ② 地域防災力の向上を目指して（災害ボランティアコーディネーター御殿場）

Q：会員17名とのことだが、大規模災害発災時には、人数が少ないのではないかと。市民の参加を求めていく計画となっているが、メンバーを集める積極的な取り組みがあるか。

A：昨年度発足したばかりの団体なので、1年をかけて会の考え方・技術の向上を図ってきた。今年度からは、イベント等にも参加して活動を広める機会を増やしていきたい。

Q：遠隔地のグループとのネットワークを考えているか。

A：静岡県ボランティア協会に加入している。予想される東海地震の際には、関東方面からのボランティアの入口が、御殿場になる可能性があるため、各市の災害対策本部の立ち上げ訓練に参加している。また、災害ボランティアコーディネーターの連絡会をつくる準備をしている。今回の岩手・宮城内陸地震の現場へも行き、情報収集・情報交換をしたいと考えている。

## ③ 子供たちの環境教育「木育」に役立つ「富士山と木の博物館」（展示会）の開催（NPO法人土に還る木 森づくりの会）

Q：イベント時に実施している木工体験は、大変人気がある。木育は大変素晴らしいと思う。予算について、助成金のみで充当できるのか。この事業による収益はあるのか。

A：賛助会費・寄付金等を集めて実施する予定である。すでに法人から内諾をいただいている。

Q：1ヶ月間の展示の計画だが、市役所支所・JA各支店などで展示販売する計画はないか。

A：移動が大変だが、考えてみたい。都会の客を中心に販売も考えていきたい。

## ④ 見て楽しい懐かしい富士山コレクションの展示（NPO法人富士賛会議）

Q：富士山についての展示は大変素晴らしい。市内外へ富士山の魅力をPRしていただきたい。17万円の申請だが、事業費は足りるのか。

A：予算的には厳しいが、2度とない骨董品も出展する。このコレクションには、民族の歴史がある。多くの方に見てもらって成果を見せたい。

### 5 講評（協議会学識経験者：牛山明治大学政治経済学部教授）

今回の提案の内容については、どれも地域を良くしていこうという試みであり大変素晴らしいものでした。

協働事業については、市民にも行政にもなかなか理解してもらえない状況があり曲がり角に来ている状況かもしれない。

行政の仕事を営利追求の民間企業に任せることに不安の声があるなかで、営利追求でなく地域を良くしようという思いには素晴らしいものがある。

これからは、協働は必要なものではなく必然である。

行政は、公平性等に左右されるが、市民の目線でどんなまちづくりをするか考える

と、市民の特性を活かした活動ができる。市内でもいい意味で競争があって盛り上がっていくとよいと思う。

本日の提案については、どのような点が協働なのかということに注目して話を聞いた。イベントについては、コスト面から見ると委託でもよいものがあるかもしれない。

協働でやることの意味で考えると、行政では出てこないような視点・やり方・提案があったのではないかな。

審査前なので個別の評価はしないが、各団体の提案はどれも素晴らしかった。

#### ※事務局から連絡

- ・本日、市民の提案を聞くために市役所の関係課からも出席があった。
- ・本日の提案については、このあと協議会委員による審査を行い、なるべく早い時期に結果を通知します。

## 6 閉会

## 御殿場市市民協働型まちづくり事業補助金事業審査会

事務局：市民提案・はじめの一步・行政提案の順に審査する。委員の加入する団体の審査に加わることはできません（該当者確認）

市民提案事業については、当初募集が2件だったので、はじめに2件を決定し、予算の範囲内なので、残りの2件が該当するかどうかの審査をする。

- ・市民提案事業 プレゼンテーションと書類を合わせて審査する。
- ・はじめの一步事業 書類審査のみ。
- ・行政提案事業 委員からの意見をいただきたい。

進行：山本（㈱ダイナックス都市環境研究所）

山本：まず市民提案事業の2件を決めるため、推進プランの手順に従い、1次投票をする。

委員は、採用した方がよい事業について、2件を選択してもらいたい。

- |                 |     |
|-----------------|-----|
| ① 御殿場線まつり・秋     | 1 1 |
| ② 地域防災力の向上をめざして | 1 3 |
| ③ 子供たちの環境教育「木育」 | 5   |
| ④ 富士山コレクションの展示  | 4   |

（以下、発表順の○数字で表示）

委員A：①について、御殿場線の輸送力増強が目的ならば、このイベントでJRにアピールすることができるか。

委員B：イベントとしては素晴らしいが、会の趣旨からいくとお祭りではないのではないかな。

委員C：御殿場線は、JRの管轄が、東海と東日本に分かれていてうまくいかないことがある。イベントでネームバリューを上げていく必要がある。

委員D：JR東海へは、行政も要望しているが、行政の要望には限りがあるので、民間に協力していただくことは意義のあることだ。

委員B：②については、区長会を利用したらどうか。各地域から災害時のボランティアについて教育を受ける人を出してもらう必要がある。

委員E：災害についての民間のプロがいない現状があり、市内に組織されている自主防災会も限度がある。以前から、大規模災害時に行政と民間の関わりが大切なので、このような団体を育てる必要があると意見を出してきた。防災対策としても必要としている。アドバイスできるような人材が育ってほしい。

委員F：自主防災会のように全市的に地域に網をはっての対策も必要だが、専門性のある人がいることも必要。

委員G：素晴らしい事業提案だが、予算については、補助金ではなく市の予算を充てることはできないか。

委員F：市民の事業にどのように予算をつけるかは難しい話になる。行政提案事業などで今後につながるのではないかな。

委員C：③について、水源保全の観点からも木は大切なものである。木造建築でも木のぬくもりを感じてもらいたい。何年間か継続して実施してもらいたい。

委員H：間伐材を利用するアイデアはよい。サンプル木として生きた木を見せることは必要。

委員I：③の団体が、富士岡公園祭りでニッキの木を配布していた。その香りに森を身近に感じ癒された。木が循環していくのは非常によい。

委員A：④について、以前の提案に比べて、協働を意識した内容になってきている。来年へつなげていく期待を込めて、予算の範囲内で採用できるならば、採用したい。

委員E：④について、コレクションの展示する上で、一個人のコレクションを使うことが、個人のPRにならないように留意してもらいたい。

また、1か月の展示期間だが、予算が足りるのか不安である。

委員A：富士山をテーマにした団体は多いので、他の団体ともコラボレーションしてほしい。予算については、謝礼のみに使われないようにしてほしい。

#### 各委員から意見

委員J：災害ボランティアコーディネーターについては、他市では話を聞いたことがあるが、本市にもあったらいいと思っていた。

委員K：①・②を採用としたが、③・④もいい提案だと思う。

委員L：はじめて審査をしたが、協働とはなにかまたどのように協働につながるのか疑問に感じた。市に代わって市が発展するような活動として考えを聞いた。

①については、民間の力で実施していくのはいい考え方と思った。

②についても、災害時にハードの復興は、公共でやるべきことだが、ボランティアは心のケアが大切な役目だということだった。機会があれば被災地に派遣をして現地を見てもらいたい。どんな形でケアをしているか、行政へ提案してもらいたいという希望でよいと思った。

③・④については、個人の趣味なので、発信するのは、観光協会など別の次元のことではないかと思った。

委員M：各発表者の思いは伝わった。ただ、発表の際に、どこで協働するのかポイントを絞って発表してほしい。③はわかりづらかった。

委員N：①については、御殿場線沿線のネットワークができればよいと思った。②について、スキルアップの事業としてとらえた。これから市民に広めてもらいたい。30万円の補助金は多すぎるようにも感じるが、今後の活動に期待して採用としたい。③・④もよかった。④は、よく協働事業を理解してくれたと思う。

委員O：各団体の思いはよかった。①と②にした。①は、駅前活性化に向けて御殿場駅前に人を集めてもらいたい。③はもうひとつ足りないように感じた。④はよい事業ではないか。

委員P：①について、駅前活性化のためにF1の限られた期間だが、イベントを通して駅前に集客するきっかけとしてはいいと思う。②について、自主防災会は地域での活動で手いっぱいになると思う。他地域からくるボランティアを行政だけで対応できるか

課題がある。③について、木育も進めてもらっていいと思う。④について、富士山が生活に密着したものであることを示すいい企画だと思う。

委員D：行政は、枠にはまった事業しかできない。予算が許せばすべての事業を採用したい。

委員C：審査を通して、協働とは何かを考えさせられた。行政ができないことをするものであれば、従来型の地域の協働団体はどのようにしたらよいのか。そんなことまで考えるとここだけでは答えが出せない。

委員B：過去の事例（神山有志の会）からみると提案の内容が見劣りする。地域の人を巻き込んでいくようなダイナミックな提案がほしかった。

委員G：①②としたが、他の2つも熱い思いを感じた。②については、遠隔地とのネットワークづくりなど、今後の事業を展開していくことを求めたい。

委員Q：③④とした。

委員H：①については、環境・燃料費の高騰などで鉄道が有利である。東御殿場駅をつかってアウトレットの客を乗降客に変えるくらいのインパクトがあってもよいのではないか。③については、3年後どのようにするのか、将来的な展開も考えてもらいたい。④については、伊奈半左衛門などが宝永噴火の火山灰排除に尽力したことについても触れてほしかった。

委員A：自主的にがんばる団体が多い中で、行政と一緒にやってみようという熱い思いの団体が出てきているので、さらに育成していくことが必要である。行政もフレキシブルに対応してほしい。

委員E：①については、世界的なイベントでどのように来御者に御殿場をPRするか、またF1観戦者同士の交流を図る仕掛けも考えてもらいたい。

委員F：協働という面から厳しくつめていくと落とす提案も出るかもしれない。団体育成の観点からいけば、4事業とも採用してよいのではないか。

①については、市長が会長の協議会がパートナーで、御殿場駅まつりになっていないか。また、官製イベントに見えてしまっている。輸送力増強についてPRをしてもらいたい。特に、御殿場の人、車ではなく電車を使うようなPRをしてほしい。③について、風倒木という行政等から見れば捨てるしかないものを活用しようとしているのでよいのではないか。

山本：ここで2次投票を行う。

	1次	2次
① 御殿場線まつり・秋	11	→ 10
② 地域防災力の向上をめざして	13	→ 12
③ 子供たちの環境教育「木育」	5	→ 6
④ 富士山コレクションの展示	4	→ 4

→ ①と②は採用とする。

委員N：③については、木育なので従来の農林課だけではなく例えば教育の観点から社会教育課など他の所属もかかわるべき事業ではないか。新しい視点がほしい。

委員E：③④の団体とも当初から市民協働型まちづくりに関わっていただいている。

事前相談から頑張って企画・提案していただいている。

委員N：個人の趣味の範囲は、行政が入り込めない領域である。そのような領域に広げていくことも広い意味で協働ではないか。

山本：③・④とも採用でよい。→異議なし。

今回委員から出た意見は、集約して各団体へ協議会の意見として伝える。

事務局で要約したうえ、出席委員に確認を求める。

#### ・はじめの一步事業

##### ① エコキャップ運動（原里幼稚園家庭教育学級）

※事務局から事業概要について説明。

委員A：少ない予算の中で、回収ボックスの購入費が気になる。

事務局：この運動を推進するNPO法人が回収ボックスを販売している。運動のシンボリックなものとして購入したいとのことである。

委員N：ペットボトルのキャップについては、マックスバリューで回収している。環境面からもサテライトまで搬入するのではなくマックスバリューと一緒に回収してもらったらかうか。当初の予算書と変更になるが、PR用のパネルを作成するなどしてほしい。

事務局：この申請書提出が5月中で、イオンがペットボトルキャップの回収をはじめることが6月に発表された。申請後、提案者からイオンに回収を依頼できないか相談に行くという連絡があった。

→イオンと協調するという条件を付けて採用する。

##### ② 実感！御殿場の魅力！」富士山御殿場ガイド「御厨の風」

※事務局から事業概要について説明。

委員B：御殿場にガイドを必要とする施設があるのか。また、どんなガイドをするのかしっかりした目標をもって取り組んでもらいたい。

委員D：宝永噴火300年記念事業で、この企画に類似の事業を行った。富士山を散策する際に、地質・植物などの専門家に場所場所で説明をしていただいた。

委員A：御殿場線を育てる会で活用できるのではないか。予算をみると自己資金もあり期待ができる。

委員E：河口湖周辺では、エコツアーが盛んだが、御殿場にはない。

山本：はじめの一步事業は、ハードルを低くするのが趣旨である。2事業とも採用することよろしいか。

→ 異議なし。

#### 行政提案事業

※委員からの意見を求める。

委員N：2つのイベントの同時開催ということだが、ポスター等の広報をどのように考えているのか。

委員D：市役所の中で、同時期のイベントはなるべく協働開催して大きなイベントにしていく方向である。

事務局：ポスターについては、昨年度と同様に両面のポスターになる。片面が市民活動見本市、片面が生活フェアとなる予定である。

委員F：行政提案として出たものを審査しなくてもよいのか。なぜ、その団体を採用したか透明性を確保する必要があるのではないか。どんな制度にするかは検討が必要だが、今後、仕組みを考えてもらいたい。

山本：既存の事業を協働事業の視点で見直す評価の仕組みを作っている。評価したものを公開していくことを考えていく必要がある。

委員N：数値目標を掲げることも必要ではないか。

→今回出た課題については、今後、協議会で検討していく。

事務局：では、本日の御殿場市市民協働型まちづくり事業補助金事業提案説明会・審査会はこれにて終了する。